

「新型コロナウイルスとの闘い、 在外の学校現場から」

ドイツ ドレスデン日本語補習校

目次

- ① 学校の規模や子どもたちの実態
- ② 現地の新型コロナウイルス事情
- ③ 実際の取り組み
- ④ 苦労した（している）こと

① 学校の規模や子どもたちの実態

- 当日本語補習校では、DIS（ドレスデンインターナショナルスクール）の教室を金曜日にお借りして、90分授業を行なっている。
- 1学年2～6名に生徒で 全生徒数25名。

② 現地の新型コロナウイルス事情

- 日本と同様にクラスは全クラス閉鎖。DISの閉鎖にも伴い、補習校もクラスでの授業は閉鎖。

③ 実際の取り組み

- オンラインにより金曜日に90分の授業を行なっている。
- 先生は、前もって何度もオンライン授業の練習、保護者は協力し合い生徒をオンライン授業に参加させている。

④ 苦勞した（している）こと

- 対面して授業をしていないため、生徒の理解度が分かりづらい。特に国際児。

（当校は国語の授業をやっている。国際児にとって特に《漢字》が大変。読む、聞く、話すは個人差がありますが、だいたい理解はできているが、生徒が「書いて」先生がチェックをするという対面では即対応できる事がオンラインでは難しいという事。そのため、保護者の協力で各自家庭でチェックするという方法を取らせて頂いている）